

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場理念と年度の職場目標を各フロアに掲示しております。経営理念と職場理念は変わらず、職場目標は年度毎に、管理者が職員との話し合いを統括し、掲げて、職員間に共有しています。	地域密着型事業所として目指すべきところについて職員間で話し合い、事業所独自の理念及び年間目標を作り上げ、管理者と職員は共有し、日々の中でも話し合う機会を持ちながらサービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、コロナの影響にて、地域の方を招いての交流はできませんでしたが、苑前のご近所の方が、喜んでほしいと、ご自宅の庭をライトアップして、ご利用者を楽しませていただきました。	利用者が地域の中で安心して暮らしていくことが出来るようにとの思いから自治会に加入し、交流を深めている。また、野菜の差し入れを頂くことも日常的にあり、良好な交流を深めながらどなたでも気軽に立ち寄れる事業所を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に発信する機会が、今年度はほとんどありませんでしたので、来年度は、また繋がりを深めていきたいと思えます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ご家族に状況報告を書面にて行い、ご意見を求め、返信封筒にてご返信頂いておりました。頂いたご意見をサービス向上に繋げるよう改善し、努めております。	現状では会議の開催は難しい状況にあるため、事業所の状況報告やサービスの実際等について、各委員、家族に文書にて伝え、議題についての質問や意見をもらいサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	対面での運営推進会議が、できない状態の今年度でしたので、ご家族に送付している状況報告でのご意見を会議とさせて頂き、頂いたご意見を掲載して、市に提出しております。	委員が一堂に会することが出来ない状況にあるため、運営推進会議に市担当者とのパイプ役として地域包括支援センター職員が入っており、日ごろから何でも相談できる積極的な関係性が構築されており、必要時相談、助言、連絡等が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを定期的なミーティングを通じ、意識を高め、スタッフ間で共有しております。また、職員との話し合いの中で、現状でのストレスを感じていないか探るようにしております。	身体拘束についての具体的な行為や言葉による拘束について理解を深め、「人権を守ることがケアの基本である」という認識の下、抑圧感のない自由な暮らしの支援に努めており、管理者は職員のストレスが蓄積されないよう声掛けを行っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について注意喚起し、ミーティングを通じて、意識を高めて、防止に努めております。職員との個別での話し合いを持ち、ストレスの軽減に努めております。	虐待防止法についてミーティングの中で学ぶ機会を設け、対象となる行為についてお互いに意識し合い、虐待のないケアを目指している。日々の関わりの中でも寄り添い本人の話を傾け安心して過ごされている。また、また管理者は職員の様子を見ながら声をかけるなど、職員の疲労が蓄積されないように、気軽に相談できる雰囲気づくりに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している方が2名入居されており、関係者と共に、ご本人を協力して支援する立場にあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人に際し、契約書と重要事項説明書で詳細をお伝えし、同意を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者のご要望は、できる限り随時対応し、ご家族からのご意見は大切にしております。改善すべき点がある場合、書面でも内容をお伝えしております。	毎月、事業所の会報とともに利用者の近況報告の際や、電話、また、面会の折には何でも話してもらえる雰囲気づくりに努めている。利用者同士の対話の中からや、入浴時の話の中でも要望を受け止め、職員で検討し運営に反映させている。苦情を頂いた場合は運営推進会議の中や事業所内で話し合いながら改善を図るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、ケアマネ共に現場を兼務している ので、日常的にスタッフからの意見や相談を受け、共に考え、良い形に反映できるように努めております。	管理者は日常的に職員との会話の機会をもち、要望を聴きだすようにしている。出された要望は会議でも話し合わせ、アイデアの取り上げ等もあり運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は、現場の管理者の意見を随時吸収し、希望時には、社員個々とも面談したり、ストレスのない職場や環境作りに力を入れております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を掲げますが、今年度は研修中止や、オンラインなどの研修参加方法の理解不足もあり、参加できず、勉強不足となっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の他GHとの通年の交流会や、2か月毎の対面ミーティングも、今年度は自粛しており、電話やメールでのやり取りで、意見を交換しております。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人、ご家族にご意見を頂き、安心して生活ができるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご意向を大切に伺いながら、共にご本人を支援していく方針であることをご家族にお伝えしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後は、定期受診対応をご家族に依頼しますが、急変時や、不都合がある場合はその限りでなく、適宜、苑でも対応したり、連携医も状態に応じ、診察してくれる体制であるとお伝えしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が生き生きと共同生活を送れるように、家庭的で和やかな雰囲気作りが、共に自然にできるように、心掛けております。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も、ご家族の存在が本人にとって一番大切であり、私たちは、共にご本人を支援をする立場であるとお伝えしております。	毎月事業所の会報とともに利用者の様子や職員との関りを伝え安心してもらっている。現在は自粛しているが、行事への案内や参加を呼びかけ、家族の思いにも寄り添いながら共に本人を支える場面づくりの支援に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、前年度までのように馴染みの場所へお連れすることさえも感染予防の観点から、自粛しておりました。馴染みの美容室にて散髪は、少ないですがお連れしております。	利用者の希望を聴きながら地域の「コミュニティー歌の会」への参加もあったが現在は自粛している。在宅時から利用している美容院に行き続けている利用者がおられ、出来る限り本人が地域住民との継続的な交流が出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や特徴を把握し、和やかな雰囲気の中で、無理せず、ゆったりと過ごせるように、関わりや環境設定を心掛けております。ご利用者同士の自然な仲の良い様子が多く見られます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去となられても、これまでの関係性に変化が生じることはなく、変わりなく、対応致しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、生活歴や趣味、嗜好の把握をしながら、要望やニーズの需要を心掛けております。男性ご利用者より希望の晩酌も、嗜む程度にて、継続しています。	入居前の自宅訪問にて本人、家族から思いや意向について聞き取り職員間で情報の共有を図り、本人本位に検討している。些細なことであっても利用者の視点に立ちできる限り意向に沿えるように日々の支援に取り組んでいる。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談での情報収集や、入居後で得た情報や、ご家族からの意向もくみ取り、なるべくその方の生活に添う好みの把握に努めております。週刊誌の定期購読希望に対応しております。	入居前に本人、家族、前事業者、面談を行い関係機関からも情報収集に努めている。入居後も本人の言葉や家族からの情報を得て、テレビ情報週刊誌購読や晩酌で一杯気分の方などできる限りその人らしい生活が継続できるよう支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者が、心身共に健やかで、苑での暮らしが「第2の家」と思える程に、安心して穏やかに過ごせるように、何よりも努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成は、計画担当の介護支援専門員と計画作成担当者を主に、ご本人やご家族の意向を反映したものになるように努め、現場職員の意見も考慮しながら、作成しております。	介護計画は日々の暮らしを通じて得られた情報に基づき、居室担当者が中心となり介護支援専門員と共に現状に即した介護計画を作成している。モニタリングも詳細に記録されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者へのケア内容は、個別記録に残す他、ケア内容の提案は、業務日誌や休憩室に挙げて、職員間に意見を求め、改善しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	開所時からの既存のサービスにとらわれない対応力を自負しておりますが、コロナ禍においては、ニーズへの積極的なアプローチに関して、自粛せざるを得ない状況ではあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節の変わり目や、穏やかな陽差しの日には、苑の庭に出て体操やお茶を飲んだりしていると、以前のようにとはいかないまでも、一定の距離間を保ち、ご近所の方々が話しかけて下さいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	苑の連携医との関係はもちろん、連携医以外の医師がかかりつけであっても、苑の看護師が主体となって協力を試み、迅速で適切に対応するように努めております。	連携医以外の受診でも事業所の看護師の協力にて受診、往診の対応は可能である。家族の協力もあり、医師との情報交換もケアマネージャーを通じ書面や口頭で伝達され日誌に記載し共有を図っている。緊急時においても看護師を通じ連携医に連絡し指示を受ける体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職員が連携し、緊急時はオンラインで駆け付け、適切な判断にて、ご利用者の体調管理に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された場合は、医療機関やご家族と退院の日時等の連絡を行い、状態の報告を受け、早期の退院に繋がるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、苑で可能な限りの対応をすること、選択肢としては苑での看取りを行うことも、ご家族にお伝えしています。連携やかかりつけ医と連携し、可能な限り、苑での終末期ができるように努めております。	入所時に重度化や終末期の対応について、事業所の方針を説明し同意を得ている。終末期には再度家族と話し合いの場を設け、看護師を中心に医療機関との連携を図り、最後の看取りケアに努めている。終末期の対応について職員全員看護師から指導を受けており、いつでも対応できるよう周知されている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備えて、応急処置の研修会を行い、緊急時に備えて、心構えをしております。利用者の救急シートも各フロアーにあり、緊急時の対応としています。	事業所には急変時に備えAEDが設置され、地域の方にも対応できることを伝えている。消防職員より心肺蘇生やAEDの実践講習を受け、実践力を身につけており、各フロアーには緊急シートを設置し、すぐ対応できる体制が図られている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練にて、夜間想定での訓練を行い、避難方法を迅速に行い、地域への応援要請の訓練も合わせて行っております。	避難訓練は夜間を含め実施されている。以前は地域、近隣の参加があったが現在は自粛されているのが現状である。避難場所の確認、備蓄の備えもある。村上市洪水・土砂災害、津波ハザードマップ、避難心得・情報方法等の掲示され、市内、町内会の協力体制の構築にも力を入れている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分や自分の大切な家族がこのケアをされているとしたら」と考えから支援することを指導しています。その方の意向、生活歴、嗜好を理解し、生き生きとされる支援を心掛けています。	理念である「笑顔、初心、協力」を念頭に一人ひとりの人格を尊重したケアの実践を心がけている。会議の中でも常に事例を基に家族や自分であったらどう感じるか話し合い、振り返りの機会を持ちながらケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の観察から、動作や仕草など、伝えられないことがあったとしても、「もしかしたら」と考察してみたり、考えて、その方が安心できる配慮を行い、さりげない支援を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一方的な介助でなく、人と人との折り合いや失礼のない適切な距離感と、それでいて家族のような温もりとやさしさを与えることができるように努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室には、その方の化粧水や保湿液もあり、使用されています。自粛傾向にありますが、なじみの美容室にも行かれるご利用者がおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備、食器洗い、テーブル拭きなど手伝って頂きます。現在、外食は自粛しておりますが、宅配してくれる村上のおいしいお寿司をお酒をのみながら、召し上がって頂いたりします。	食事に関しては専門調理師が利用者にあった旬の素材を生かした調理を提供している。リビング内も広く、明るく、利用者も個々の力を活かしながら職員と共に和やかな雰囲気の中、食事作りを行っている。宅配にて村上名産のお酒やお寿司を堪能されるなど楽しい食事も提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録、栄養状態を把握し、嗜好や禁止食材、食事形態を職員間で共有しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施は習慣化し、定着しております。その方の習慣やタイミングで、適宜行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立、一部介助、全介助などその方の自立度に応じて、個々に合わせた声掛けと介助を行っています。身体機能、下肢筋力の維持に、生活動作を利用したり、個別の起立訓練も行っています。	トイレでの排泄を基本として利用者の状態に合わせた支援を行っている。立位困難な方には職員2名で座位姿勢を保持した個別対応に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールができない方に関して、情報を共有し、適宜、整腸剤や下剤の投与を適宜行っています。生活習慣に合わせて、ヤクルトやヨーグルトを提供している方もおられます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	普通浴槽とリフト浴槽があるので、状態に応じて安心して入浴が楽しめるように支援しています。ゆずや菖蒲の季節の湯を提供したり、入浴中のコミュニケーションも大切にしております。	入浴時間を午前浴と決めているが、利用者の要望があれば午後入浴も考えている。個浴と機械浴を使い分け身体機能にあった入浴となっている。浴室内の事故防止に努め安全で気持ちよく入浴できる支援に心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のメリハリのある生活の提供だけでなく、その方の生活習慣や体調にも考慮しながら、居室で休んで頂いたり、遠慮せず、家のように楽に生活できるように心がけております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理は、苑の看護師が主体となり、個々の内服状況や内服薬の説明においても、わかりやすく可視化し、職員間で共有できるように努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	安心して、家のように過ごして頂くことと、生活歴や趣味嗜好に応じて、苑でも入居前と同じく、楽しんでもらえる個々の支援にも取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	趣味嗜好に応じて、ご家族やお友達、地域の方にもご協力頂いたりして、外出してきたのですが、コロナの現在は、ご家族との外出までも自粛している状態です。地域のちょっとした外出から、また始めていきたいと考えています。	従来は家族、地域ボランティアの協力により外出、花見、村上大祭など外出の機会が多かったが、現在は自粛生活の状況にある。今後以前の環境に戻り外出が可能になった時は、家族、町内の協力を呼び掛け、利用者と共に外出できることに期待している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で使用できる金銭は、苑で管理しており、ご希望に応じて買い物代行していません。以前のように、一緒に買い物へ行くことも、現在は自粛しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からご本人に電話がきたり、ご本人がご家族へ連絡したいと申される場合等、気軽にやり取りができるようにお伝えしています。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の趣味嗜好で、安全にも配慮し、共有スペースは、ご利用者間の相性も考慮しながら、夫々が気兼ねなく、落ち着いて過ごせるように、テーブル配置を工夫しております。玄関装飾にも、季節感を取り入れています。	事業所は吹き抜けの天井も高く明るい居心地の良い生活空間となっている。各部屋の入り口には、本人の手作り作品が飾られ個々の特徴が活かされ、心を和ませてくれる。リビング内は広く、畳スペースやソファが置かれ開放的な空間となっている。緑と花の鉢植を随所に置き、季節感を取り入れた共有空間の工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が、気兼ねなく夫々が家のように落ち着いて過ごせるように、共有スペースを開放的にして、定着できる場所が見つかるように工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みのある物や家具、娘、孫の写真に囲まれていたり、大好きなタレント、歌手のCDやポスターが掲示していたり、自由で夫々が居心地良く過ごせるようになっています。	本人、家族と相談し、使い慣れた馴染みの寝具類や家族、孫の写真、作品など、思い出の品物を持参し、思い思いの飾りつけの工夫をこらし、その人らしく落ち着いて過ごしてもらえるような配慮がされている。掃除専門担当の方と部屋の掃除を行うなど清潔感も確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の生活習慣や生活歴を考慮し、安全に無理なくできることを把握しながら、できることが長く続くよう、さりげない支援と介助にて、自立を支援しております。		